

平成31年2月20日

足立区立西新井第一小学校  
校長 網田 俊二 様

西新井第一小学校開かれた学校づくり協議会長  
西一小CS委員会 会長 市村 智

## 平成30年度 学校関係者評価書

### 1. 総評について

これまでの西一小の校風が受け継がれ、加えて新しい風が入り、学校に活気が出てきている。教師の人間関係は良好で、落ち着いていて活力のある学校になり、互いに切磋琢磨して真剣に児童の指導に取り組んでいる。そのことは、9月に実施した開かれの委員との懇談会で感じ取った。

子どもたちは、先生方の熱意や努力、保護者や地域の方々の指導に応じて素直に育ち、一生懸命学習や運動に励み、いきいきとして健やかに学校生活を送っている。全体として、心と身体の健康、学力の確実な定着など、おおむね良い方向の成果が得られていると評価できる。しかし、学習や生活習慣の定着には、二極化がみられる。毎日の欠席者も平均10名程度と少ないが、個々の児童の中には、不登校や遅刻など課題を多く持つ児童が少数おり、家庭や関係機関とも連携して十分対応するよう努力してほしい。

### 2. 今年度の重点目標とそれに向けた取組の概要について

#### 重点 1 -あふれる意欲と確かな学力を身につけた子どもの育成-について

##### (1) 教師の授業力の向上

算数科では習熟度別学習が定着し、区教委の「足立スタンダード」に沿って授業が展開されている。若手教員の授業力の向上には、学年主任や教科指導専門員の指導が定着し、学校全体の指導力の向上につなげており、子どもたちの学習意欲や学力向上に役立っていると考えられる。また、学力調査は区の平均を昨年度は大きくクリアしたが、本年度は通過率が72.6%となり低下した。その原因を分析し、学力向上に向けた補習授業や個別指導のあり方など更なる取組の工夫改善を図ってほしい。

教材研究の充実、会議のIT化等の項目では、図書や事務処理のIT化を図り、会議等の工夫や精選により、子どもに寄り添う体制作りを工夫している様子は評価できる。次年度はタブレットを含めたICT機器の導入がなされると聞く。研修会等を通してぜひ子どもたちへの有効な活用を図ってもらいたい。

##### (2) 基礎・基本の定着

1年生以上の算数科の少人数指導、習熟度別指導は有効であり、先生方のきめ細かな指導により子ども達は算数が好きになり自信がついている。今後も教師間での更なる協力と連携や指導力アップなどを図って進めてもらいたい。

##### (3) 家庭教育の充実

家庭学習では、先生と家庭との密接な連携により自主的学習が継続できるよう工夫している。これまでリーフレット「いきいき生活のすすめ」を用いた「親子でいきいき生活週間」の取組を年3回実施し、保護者と連携しながら家庭学習の習慣が定着してきて評価できる。更に、その児童に合った具体的な課題を持たせて、先生と親が見守り励ましていくよう工夫して取り組んで欲しい。宿題については、学年で連携して学級による偏りがないようバランスをとって欲しい。

## 重点 2 一心身ともに健康で、心豊かな子どもの育成—について

### (1) 心身の健康づくりの奨励

「すくすく教室」、給食後の歯磨き指導、縄跳びなどの工夫により、子どもたちの体力向上や豊かな心の育成がなされていると考える。今後も方法や内容を児童の実態を踏まえ取り組んで欲しい。区の課題でもある「投げる力」の育成に向けて授業や休み時間にもボール等になじむ教材の工夫をして欲しい。

リーフレット「いきいき生活のすすめ」を活用して、年3回長期休業日あけに「いきいき生活週間」の取組を行い、家庭と連携した早起き早寝朝ごはんの習慣を身につけさせる取組は成果を出している。区の施策のご飯と味噌汁の調理実習も全員ができるように工夫して欲しい。また高齢者福祉施設訪問(3年)や安全ボランティアさんへの感謝集会など、豊かな心の育成にとって重要な取組であり評価できるので継続して実践して欲しい。

### (2) 生活習慣の確立

子どもたちがさりげなく挨拶をして廊下を通っていて好感が持てる。「いきいき生活のすすめ」は、個々の児童への励ましや指導に利用し成果が十分出ている。家庭への啓発に役立っているので継続していただきたい。

### (3) 豊かな体験活動

年間2回の地域の清掃活動を計画的に行っていることは大切であり、様々な体験を通して思いやりの心を育て、社会性を養える機会をもっと増やして欲しい。

### (4) 「食」への自己管理能力の向上

子どもたちが一番楽しみにしている給食では、栄養指導や「もりもり通信」の発行、セレクト、バイキング給食等、食の自己管理の向上のための様々な取組は評価できる。本年度も区の施策である「給食メニューコンクール」には、5・6年の児童全員が応募し、入賞者もいる。ぜひこれも継続してほしい。残さい率が区の平均をクリアーしているのも評価できる。また、アレルギーをもっている児童のための除去食の取り組みは大変であるが、きめ細かな取り組みをがんばってほしい。ランチルームの冷房化によって年間を通しての活用が昨年度より増えたことは子どもたちにとっても嬉しいことだと思う。

### (5) 道徳的な実践力の向上

道徳授業地区公開講座では、道徳的な実践力育成の指導をしている様子が伺える。さらに実践の場として、ユニセフ募金、ぴかぴかデーなど取り組まれて児童がすばらしい活動しており評価できる。「特別の教科道徳」が本年度からスタートしたが研修会等を実施してさらなる適正な実施を望んでいる。

## 重点 3 安全への意識をもち、たくましく生きる子どもの育成—について

### (1) 児童の安全意識の向上

警察・消防・薬剤師等の関係諸機関と連携し、児童は健康・安全への意識を高めている。セーフティー教室、交通安全教室、自転車教室、薬物乱用防止教室等も充実しており継続して欲しい。

### (2) 保護者や地域関係機関と連携した安全教育の推進

以前の地域防災スクールモデルの成果を生かして、防災教育、応急看護、講演会など、保護者や地域関係者と連携して安全教育の推進に努力し、保護者や地域への啓発も進んでいる。教員のAED訓練も実施時期を年度初めにセットしていることは、教員全員で取り組もうとする姿勢が見える。

### (3) 地域安全ボランティア・保護者と共に児童の登下校の安全確保

老人会、町会・自治会などの地域安全ボランティアの方々の毎日の児童の登下校の見守りに頭が下がりる思いである。感謝集会では、地域安全ボランティアの方々と児童とのコミュニケーションができ、街の中に明るい声が行き交い、安全な地域作りに役立っている。このことを児童・保護者に自覚するよう指導を継続してほしい。開かれた学校づくり協議会の予算で購入した「黄色い旗」や開かれ作成の「帽子」の活用もぜひ進めてもらいたい。

### 3. 保護者や地域へのメッセージについて

- 家庭では、社会的・道徳的価値観、しつけや生活習慣、家庭学習の定着など子どもに教えなければならないことを具体的に伝えてほしい。学校教育と家庭教育の連携が強く求められている。
- 本は「心を育む栄養である」と言われている。語り合い、読書しながら、考える力や知恵が生まれ、想像力・創造力や人を慈しむ心を育ててくれる。幼児期から読書の読み聞かせや読書習慣をつけることが大切である。家庭では、親子で読んだ本について語り合える温かい家庭であって欲しいと願っている。昨年度から配置された図書館支援員や図書館ボランティアをうまく活用し、読書活動がもっと活発になってくることを願う。
- 子どもに、お手伝いをさせることにより、家族の一員としての自覚を促したり、家族で地域の行事やボランティア等の奉仕活動に積極的に参加したりすることをお願いする。
- 家庭の教育方針の下、親子で物を作ったり、料理をしたり、自然や社会のできごとなどを話し合ったりし、様々な体験の場面や家庭生活の場面などで親子のふれあいを深めながら、将来の夢を育むよう学校とPTAが連携して家庭教育を進めてもらいたい。